

新蘭西
民法
五

CF2
3
07

館書圖京東	
面四一	門新
架一	部一一
號九四	類

英
士
本



明治三十年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

以上草筆受

仙蘭西

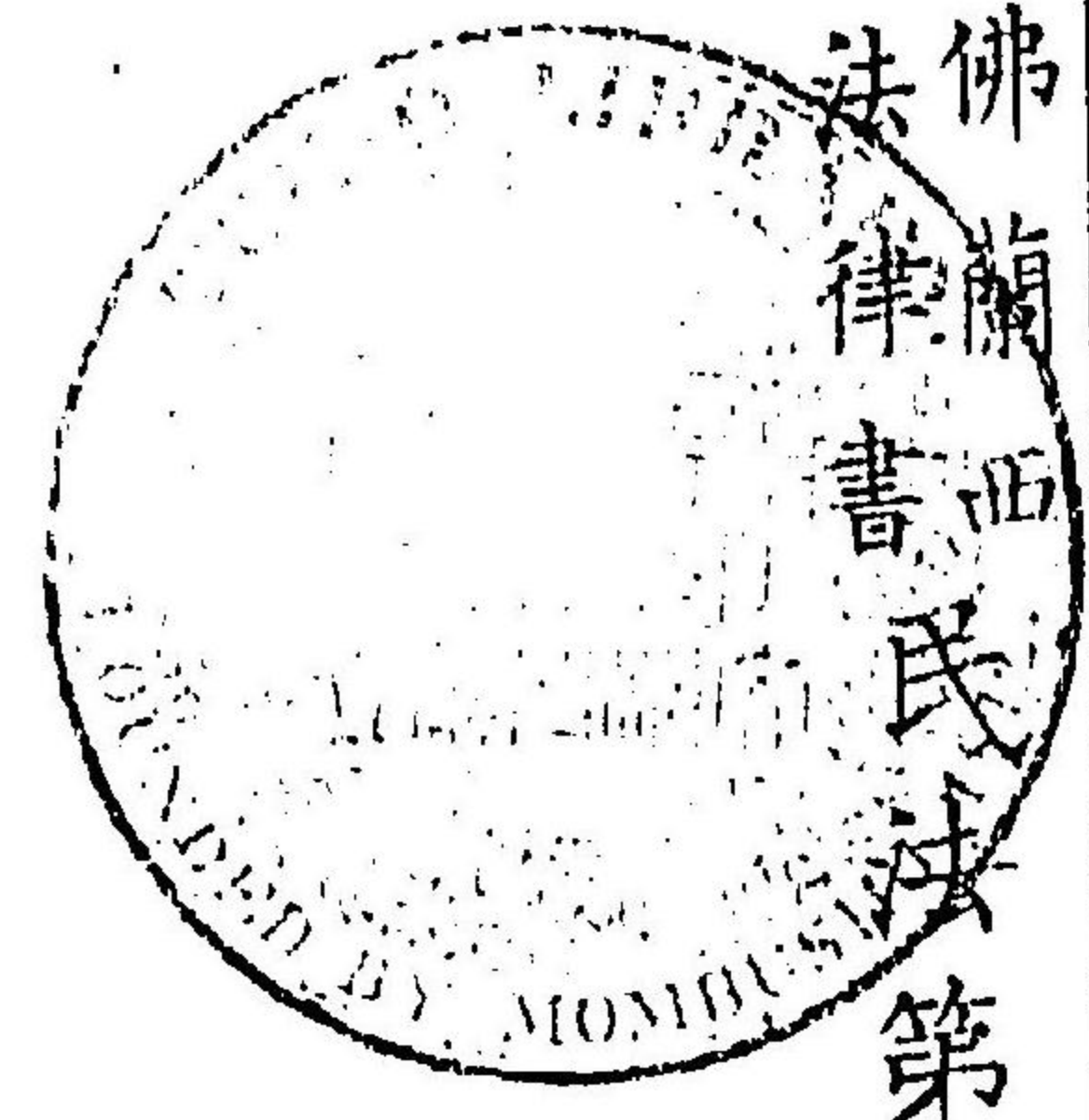
法律書

民法

文部省

CF2
3
07

佛蘭西民法第五



文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付

第三篇 財產所有ノ權ヲ得ル種々ノ方法

總規則 一千八百三年第四月十九日決定

同月廿九日布告

第七百十一條 財產所有ノ權ハ遺物相續ニ因リ又ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ニ因リ又ハ契約ニ因テ之ヲ得可シ

佛蘭西

第三篇

大正

明治三十年未刊行

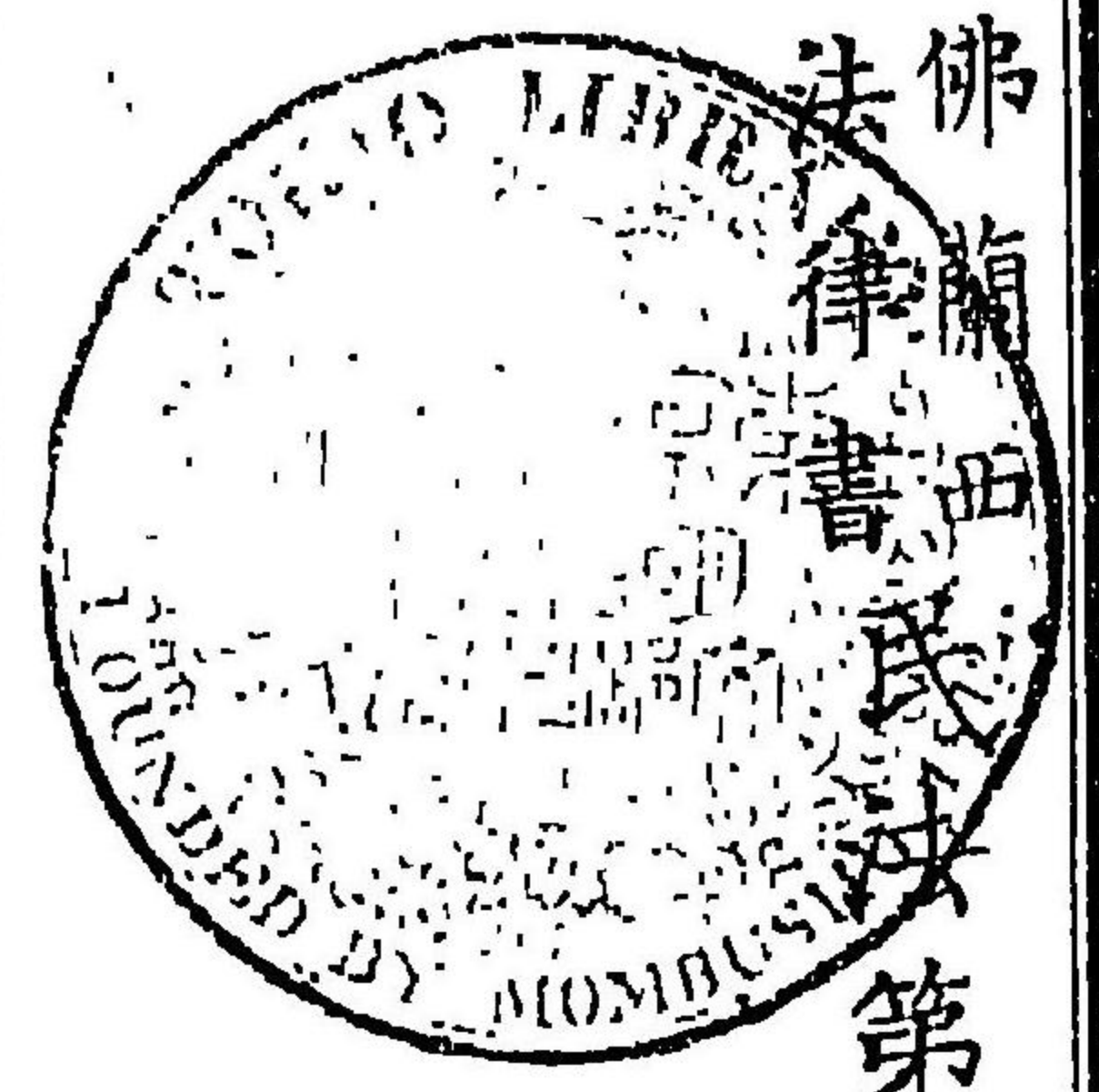
文部少博士箕作麟祥口譯 以上草書

仙蘭西 法律書 民法

文部省

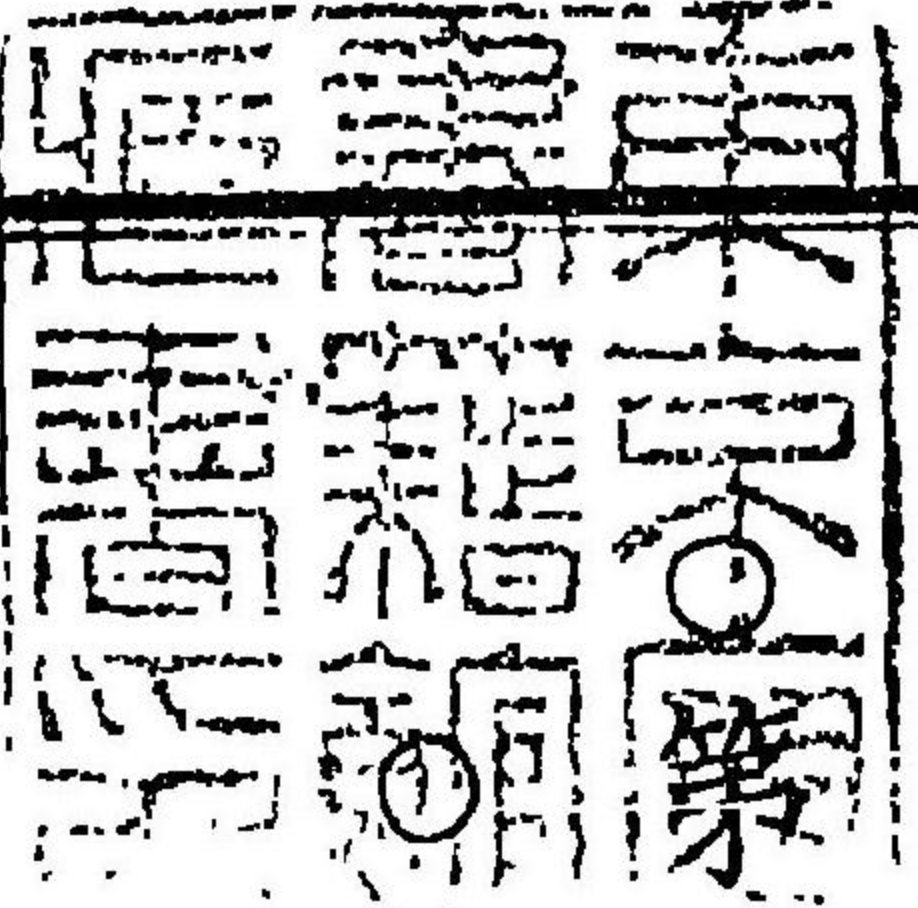


CF2
3
07



文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付



第三篇 財産所有ノ權ヲ得ル種々ノ方法
總規則 一千八百三年第四月十九日決定
同月廿九日布告

第七百十一條 財産所有ノ權ハ遺物相續ニ因
リ又ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ニ因
リ又ハ契約ニ因テ之ヲ得可シ

佛蘭西法律書 第三篇

第七百十二條 主ニ因テ從ヲ併スノ權又ハ連合ス可キ物ヲ得ルノ權及ヒ定期ノ時間已レノ用ヒタル物件ヲ所得ト為スノ權ニ因リ亦財產所有ノ權ヲ得可シ

第七百十三條 所有者ナキ財產ハ政府ニ屬ス可シ

第七百十四條 一人ニ屬セス衆人ノ相共ニ用ル可キ財產アリ
此財產ヲ用フルノ方法ハ國中取締ノ法ヲ以テ之ヲ定ム

第七百十五條 打魚狩獵ヲ為スノ免許モ亦格別ノ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第七百十六條 自己ノ地内ニ於テ財貨ヲ見出シタル時ハ之ヲ見出シタル者ノ所有トス可シ若シ他人ノ地内ニ於テ之ヲ見出シタル時ハ其見出シタル者其半ハヲ所得トシ其地ノ所有者其半ハヲ所得トス可シ

見出シタル財貨トハ埋藏シタルヲ料ラス見出シテ所有者ノ知レサル物ヲ云フ
第七百十七條 性質及ヒ種類ノ如何ナルヲ問

ハス海中ニ投ケ入レシ品物及ヒ海水ノ打上ケシ品物又ハ海岸ニ生スル草類ヲ所得トスルノ權ハ亦別段ノ法則ヲ以テ之ヲ規定ス所有者ノ出テサル拾取物モ亦之ニ均シ

○第一卷 遺物相續(千八百三年第四月十

九日決定同月廿九日布告)

○第一章 遺物相續ヲ始ムル事及ヒ相

續人遺物ヲ所得ト為ス事

第七百十八條 遺物相續ハ人ノ死去及ヒ准死

ニ因テ之ヲ始ム可シ

第七百十九條 遺物相續ハ第一篇第一卷民権受奪

第二章第二款ノ規則ニ循ヒ准死ヲ受ケシ時

ヨリ之ヲ始ム可シ

第七百二十條 若シ互ニ遺物相續ヲ為ス可キ

者數人同一ノ事ニテ死去シ其中何レノ者先ニ死去シタルヲ知ルヲ得サル時ハ其時ノ景況ニ因リ思料シテ其中ノ後ニ死去シタル者ヲ定メ又其景況ノ分明ナラサル時ハ其死者ノ年齢ト男女トノ分別ヲ以テ定ム可シ

第七百二十一條 若シ同時ニ死去シタル數人ノ者皆十五歳以下ナル時ハ其中ノ年長者ヲ以テ後ニ死去シタルト思料ス可シ

若シ同時ニ死去シタル數人ノ者皆六十歳以上ナル時ハ其中齡ノ少ナキ者ヲ以テ後ニ死去シタルト思料ス可シ

Jai Kiu

去シタルト思料ス可シ

若シ同時ニ死去シタル數人中ニ十五歳以下ナル者ト六十歳以上ナル者トアル時ハ十五歳以下ノ者ヲ以テ後ニ死去シタルト思料ス可シ

第七百二十二條 若シ同時ニ死去シタル數人ノ者皆滿十五歳以上六十歳以下ニシテ其齡ノ全ク均シク又ハ其齡ノ差一歳ニ過サル時ハ常ニ男ヲ以テ後ニ死去シタルト思料ス可シ

若シ其數人ノ者男又ハ女ノニナル時ハ遺物
相續ヲ為ス可キ天然ノ順序ニ從テ思料ス可
シ故ニ年少ノ者ヲ年長ノ者ヨリ後ニ死去シ
タルト思料ス可シ

第七百二十三條 當然ノ遺物相續人其遺物相
續ヲ為スノ順序ハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ若
シ當然ノ遺物相續人アラサル時ハ私生ノ子
遺物相續ヲ為シ又私生ノ子アラサル時ハ夫
婦中ノ生存スル者之ヲ為シ夫婦中ノ生存ス
ル者アラサル時ハ其財產ヲ官ニ徵收ス可シ

第七百二十四條 當然ノ遺物相續人ハ別ニ裁
判所ニ願ハスト雖レ遺物中ノ負債及ヒ諸費
ヲ償フテ死者ノ財產及ヒ死者ノ權利ヲ所得
ト為スノ權アリ然レ私生ノ子及ヒ夫婦中ノ
生存スル者遺物相續ヲ為ス時又ハ其財產ヲ
官ニ徵收スル時ハ必ズ定式ニ循ヒ裁判所ノ
許ヲ得タル上之ヲ為スヲ必要トス

○第二章 遺物相續ヲ為スニ必要ナル
諸件

第七百二十五條 遺物相續ヲ為サントスル者

ハ其遺物相續ヲ始ムル時現存スルヲ必要トス故ニ左ノ諸人ハ遺物相續ヲ為スヲ得ス

- 第一 未タ懐胎ノ徵ナキ子
- 第二 出産ノ後生存シ能ハサル可キ子
- 第三 准死ヲ受ケシ者

第七百二十六條 一千八百十九年第七月十四日ノ法ヲ以テ廢ス外國人ハ其親族ノ外國人又ハ佛蘭西人タルヲ問ハス其親族ノ佛蘭西領地内ニ於テ所有スル財産ヲ相續ス可キ場合

ト方法トニ付キ必ス佛蘭西人其親族ノ外國領地内ニ於テ所有スル財産ヲ相續ス可キ場合ト方法トニ循フ可シ但シ此規則ハ第十一條民權受奪ノ卷ニ記スル所ニ均シトス

第七百二十七條

- 第一 死者ヲ殺シ又ハ殺サント為シタルヲニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケシ者

- 第二 死者ヲ死刑ニ處ス可キ讒訴ヲ上

告シタル者

- 第三 死者ノ殺害セラレタルヲ知リテ

其事ヲ裁判所ニ上告セサル丁年者

此等ノ者ハ遺物相續ヲ為ス可カラサルニ因リ遺物相續人ノ負中ヲ除去セラル可シ

第七百二十八條 死者ヲ殺害シタル者ノ血屬ノ尊屬ノ親及ヒ卑屬ノ親并ニ姻屬ノ同上ノ親及ヒ其配偶者、兄弟、姉妹、伯叔、父母、甥、姪ハ其殺害ノ事ヲ上告セサルヲ以テ死者ノ遺物相續ヲ為スノ差支トナルヲナシ

第七百二十九條 遺物相續ヲ為スノ禁ヲ受ケタルニ因リ遺物相續人ノ負中ヨリ除去セラ

レタル者ハ遺物相續ヲ為シ始メタルヨリ以來其所得ト為シタル利益及ヒ入額ヲ還ス可シ

第七百三十條 遺物相續ヲ為スノ禁ヲ受ケシ者ノ子其親ニ代リ遺物相續ヲ為ス可ラス然レ自己ノ權ニ因リ遺物相續ヲ為ス可キ時ハ其親ノ過咎ノ為メ遺物相續人ノ負中ヨリ除去セラル、トナル可シ但遺物相續ヲ為スノ禁ヲ受ケシ者ハ通常ノ法則ニテ允許セシ如ク其子ノ相續シタル財産ニ付キ其入額ヲ

得可キノ權ヲ得ント要ム可カラズ

○第三章 遺物相續ヲ為スノ順序

○第一款 總規則

第七百三十一條 遺物相續ハ後ノ數條ニ記載
スル所ノ順序ト規則トニ循ヒ死者ノ子及ヒ
卑屬ノ親尊屬ノ親及ヒ傍系ノ親之ヲ為ス可
シ

第七百三十二條 法律上ニテ遺物相續ノ規定
ヲ為スニ付テハ財產ノ性質及ヒ原由ヲ問フ
トナシ

第七百三十三條 尊屬ノ親及ヒ傍系ノ親ノ相
續ス可キ遺物ノ財產ハ之ヲ二箇ノ平等ノ部
分ト為シ其一部ハ本宗ノ親ニ屬シ其一部ハ
外族ノ親ニ屬ス

異父又ハ異母ノ兄弟ハ父母ヲ同ウスル兄弟
ノ為メ遺物相續人ノ負中ヨリ除去セラルル
トナカル可シ然レ第七百五十二條ニ記スル
所ノ外其所屬ノ族ニテ得可キ所ノ遺物ノ財
産中ニ於テ已ノ部分ヲ得可シ○父母ヲ同ウ
スル親族ハ本宗及ヒ外族ノ二族ニ於テ遺物

相續ヲ為スコトヲ得可シ

本宗及ヒ外族ノ二族中其一族ニ尊属ノ親及
ヒ傍系ノ親ノ全クアラサル時ノ外他ノ一族
ノ親ニ全ク遺物相續ノ權ヲ移ス可カラズ

第七百三十四條 死者ノ本宗ノ親ト外族ノ親
トノ間ニ遺物ノ財産ヲ分チタル上ハ其支属
ノ間ニ更ニ之ヲ分ツニ及ハス但シ其本宗ト
外族トノ二族ニ分チタル部分ハ後ニ記スル
所ノ代テ遺物相續ヲ為ス時ノ外最モ親近ノ
遺物相續人一人又ハ数人ニ属ス可シ

第七百三十五條 血紡ノ親疎ハ人ノ代ノ数ヲ
以テ之ヲ定メ其一代ヲ名ケテ級ト云フ

第七百三十六條 数箇ノ級相連ナルヲ系ト云
ヒ其經直ニシテ互ニ血紡アル者ノ級相連ナ
ルヲ宗系ト云ヒ又其經直ニ非スシテ所出ノ
同シキニ因リ互ニ血紡アル者ノ級相連ナル
ヲ傍系ト云フ
宗系ヲ分ツテニトス其一ハ卑属ノ宗系又一
ハ尊属ノ宗系ナリ
卑属ノ宗系トハ人ヲ其卑属ノ者ト相連接セ

シムル系ヲ云ヒ尊属ノ宗系トハ人ヲ其尊属ノ者ト相連接セシムル系ヲ云フ

第七百三十七條 宗系ニ於テハ代ノ数ニ准シ

テ級ノ数ヲ立ツ故ニ子ハ父ニ對シテ第一級

トシ孫ハ第二級トス又之ニ及シテ言フ時ハ

其親ヲ第一級トシテ其祖父ヲ第二級トス

第七百三十八條 傍系ニ於テハ此人ヨリ其所

出ノ者ニ至リ其者ヨリ彼人ニ至ル代ノ数ニ

准シテ級ノ数ヲ定ム

故ニ兄弟ハ第二級トシ伯叔父ト甥トハ第三

級トシ従兄弟ハ第四級トス他ハ皆之ニ倣フ

○第二款 代テ遺物相續ヲ為ス事

第七百三十九條 代テ遺物相續ヲ為ストハ法

律上ニ於テ此人ヲ以テ直ニ彼人ト同視スル

為メ別段ニ設ケタル規則ニシテ其代ル者ニ

死セシ本人ノ級ト權トヲ全ク移スヲ云フ

第七百四十條 卑属ノ親ハ其級ノ如何ナルヲ

問ハス尊属ノ親ニ代テ遺物相續ヲ為ストヲ

得可シ喻ヘハ死者ノ子ト其死者ヨリ前ニ死

シタル子ノ卑属ノ親ト共ニ遺物相續ヲ為ス

可キ時又ハ死者ノ子皆死者ヨリ前ニ死去シ
テ其子ノ同級ノ卑属ノ親又ハ同級ナラサル
卑属ノ親数人ニテ共ニ遺物相續ヲ為ス可キ
時ハ卑属ノ親其尊属ノ親ニ代テ遺物相續ヲ
為スヲ得可キカ如シ

第七百四十一條 尊属ノ親ハ卑属ノ親ニ代テ
遺物相續ヲ為ス可カラズ又本宗又ハ外族ノ
親近ノ尊属ノ親ハ常ニ疎遠ノ尊属ノ親ヲ除
去シテ遺物相續ヲ為ス可シ

第七百四十二條 傍系ニ於テハ死者ノ兄弟及

ト姉妹ノ卑属ノ親其伯叔父母ト共ニ遺物相
續ヲ為ス可キ時又ハ死者ノ兄弟姉妹皆死者
ヨリ前ニ死シテ其兄弟姉妹ノ同級ノ卑属ノ
親又ハ同級ナラサル卑属ノ親数人共ニ遺物
相續ヲ為ス可キ時卑属ノ親其尊属ノ親ニ代
テ遺物相續ヲ為スヲ得可シ

第七百四十三條 代テ遺物相續ヲ為スヲ允許
シタル場合ニ於テハ遺物ノ財産ヲ族ニ因テ
之ヲ分チ若シ同一ノ族ニ数箇ノ旁支アル時
ハ其旁支中ノ族ニ因テ更ニ之ヲ分チ同一ノ

旁支中一人ハ一人毎ニ之ヲ分ツ可シ

第七百四十四條 生存スル人ニ代リテ遺物相續ヲ為スルヲ得可カラズ死去シ又ハ准死ヲ受シ者ノミニ代リテ遺物相續ヲ為スルヲ得可シ

若シ尊屬ノ親死去シ卑屬ノ親其遺物相續ヲ拋棄シタルト雖也後ニ其死者更ニ尊屬ノ親ノ遺物ヲ相續ス可キノ理アル時ハ其卑屬ノ親其死者ニ代リテ遺物相續ヲ為スルヲ得可シ

○第三款 卑屬ノ親遺物相續ヲ為ス事

第七百四十五條 子及ヒ卑屬ノ親ハ男女ノ區別無ク且出生シタル順序ヲ問ハズ又父母ノ異ナルヲ問ハズ其父母祖父母及ヒ其他ノ尊屬ノ親ノ遺物相續ヲ為ス可シ
若シ其子及ヒ卑屬ノ親皆第一級ニ在テ自己ノ權ヲ以テ遺物相續ヲ為ス可キ時ハ各自ニ平等ノ部分ヲ相續ス可シ又其子及ヒ卑屬ノ親皆代テ遺物相續ヲ為ス可キ時又ハ其子及

ニ卑属ノ親中ノ数人ノ三代テ遺物相續ヲ為ス可キ時ハ其族ニ因テ遺物相續ヲ為ス可シ

○第四款 尊属ノ親遺物相續ヲ為ス事

第七百四十六條 死者ニ子孫、兄弟、姉妹及ヒ其兄弟、姉妹ノ卑属ノ親ナキ時ハ其死者ノ遺物ノ財産ヲ半ハニ分チ父又ハ宗系ノ尊属ノ親ト母又ハ外族ノ尊属ノ親ト之ヲ相續ス可シ級ノ親近ナル尊属ノ親ハ自己ノ属スル族ニ於テ受ク可キ所ノ遺物ノ財産ヲ相續シ其族

中ノ更ニ疎遠ナル尊族ノ親ハ其遺物ヲ相續ス可カラス

又同級ノ尊属ノ親ハ各自ニ其遺物相續ヲ為ス可シ

第七百四十七條 尊属ノ親ヨリ子又ハ卑属ノ親ニ與ヘタル物其子又ハ卑属ノ親ノ子ナクシテ死去シタル時猶以前ノ儘ニテ存スル時ハ其尊属ノ親他ノ親族ヲ除去シテ其物ヲ相續ス可シ

又其與ヘタル物ヲ既ニ賣拂フタル時ハ其金

額ヲ相續ス可シ
又其物ヲ得タル子及ヒ卑屬ノ親ヨリ他人ニ
對シテ其物ヲ取還ス可キ訴訟ヲ為スノ權モ
亦其尊屬ノ親ニ移ス可シ

第七百四十八條 人子孫ナクシテ死去シタル
時其父母猶生存シ且其死者ノ兄弟姉妹及ヒ
其兄弟姉妹ノ卑屬ノ親モ亦生存スルニ於テ
ハ其死者ノ財産ヲ平等ノ二部ニ分チ其一部
ハ父母之ヲ相續シ其父ト母トニテ又其一部
ヲ平等ノ二部ニ分ツ可シ

其他ノ一部ハ此章ノ第五款ニ記スル如ク兄
弟姉妹及ヒ其卑屬ノ親之ヲ相續ス可シ

第七百四十九條 人子孫ナクシテ死去シ其父
母中ノ一人亦既ニ死去シテ其兄弟姉妹及ヒ
其兄弟姉妹ノ卑屬ノ親アル時ハ前條ニ循ヒ
父母中ノ死シタル者ニ屬ス可キ財産ノ部分
ヲ兄弟姉妹及ヒ其兄弟姉妹ノ卑屬ノ親ニ屬
ス可キ財産ノ一部ト併合ス可キ事此章ノ第
五款ニ記スル所ノ如クナル可シ

○第五款 傍系ノ親遺物相續ヲ為ス

事

第七百五十條 子孫ナクシテ死去シタル者ノ
 父母既ニ死去セシ時ハ其兄弟姉妹及ヒ兄弟
 姉妹ノ卑屬ノ親ニテ尊屬ノ親及ヒ他ノ傍系
 ノ親ヲ除去シ遺物相續ヲ為ス可シ
 其兄弟姉妹ノ卑屬ノ親ハ此章ノ第二款ニ記
 シタル如ク自己ノ權ヲ以テ遺物相續ヲ為シ
 又ハ代テ遺物相續ヲ為ス可シ
 第七百五十一條 子孫ナク死去シタル者ノ父
 母猶生存スル時ハ其兄弟姉妹及ヒ兄弟姉妹

ノ卑屬ノ親死者ノ財産ノ半ハノミヲ相續ス
 可シ○若シ其父母中ノ一方ノミ生存シタル
 時ハ兄弟姉妹及ヒ兄弟姉妹ノ卑屬ノ親死者
 ノ財産ノ四分ノ三ヲ相續ス可シ
 第七百五十二條 前條ニ循ヒ兄弟姉妹ノ相續
 ス可キ死者ノ財産ノ半ハ又ハ其四分ノ三ヲ
 分派スル方法左ノ如シ○其兄弟姉妹皆死者
 ト父母ヲ同ウスル時ハ各自平等ニ其財産ヲ
 分チ若シ父母ヲ同ウセザル時ハ異父ノ兄弟
 姉妹ト異母ノ兄弟姉妹トノ雙方ニ其財産ヲ

平分シ其兄弟姉妹中ニテ死者ト父母ヲ同ウ
 スル者ハ其雙方ノ財産中ニテ已レノ部分ヲ相
 續シ異父及ヒ異母ノ兄弟姉妹ハ各其一方ノ
 財産中ニテ已レノ部分ヲ相續ス可シ若シ又
 異父ノ兄弟姉妹ノミナル時又ハ異母ノ兄弟
 姉妹ノミナル時ハ其一方ノ兄弟姉妹他ノ親
 族ヲ除キテ其財産ノ全部ヲ相續ス可シ

第七百五十三條 死者ニ兄弟姉妹及ヒ其卑屬
 ノ親ナク且父母ノ中一方ノアラサル時又ハ
 父母共ニナクシテ本宗及ヒ外族中ノ一族ニ

尊屬ノ親ナキ時ハ父又ハ母又ハ生存スル尊
 屬ノ親其遺物ノ半ハテ相續シ他ノ族中ノ最
 親ノ傍系ノ親其半ハテ相續ス可シ但シ同級
 ノ傍系ノ親數人アル時ハ其半ハテ各自平等
 ニ分ツ可シ

第七百五十四條 前條ノ場合ニ於テ生存スル
 父母ハ自己ノ所有トシテ相續セシ物ニ非ザ
 ル財産ノ三分一ノ入額ヲ得ルノ權アリ
 第七百五十五條 第十二級以外ノ親族ハ遺物
 相續ヲ為ス可カラズ

若シ本宗及ヒ外族中ノ一族ニテ遺物相續ヲ為シ得可キ級ノ親族ナキ時ハ他族ノ親族遺物ノ全部ヲ相續ス可シ

○第四章 規則外ノ遺物相續

○第一款 私生ノ子父母ノ遺物相續

ヲ為スノ權及ヒ子孫ナク死去シタル私生ノ子ノ遺物ヲ相續スルノ權

第七百五十六條 私生ノ子ハ當然ノ遺物相續

人ニ非ル者トス故ニ親ヨリ之ヲ我子ナリト

認メタル時ノ外其父母ノ遺物ヲ相續スルノ權ナシ○又私生ノ子ハ父母ノ親族ノ遺物ヲ相續スルノ權ナシ

第七百五十七條 私生ノ子父母ノ遺物ヲ相續

スルノ權ハ左ノ如クタル可シ

父母ニ嫡出ノ子アル時私生ノ子ノ遺物相續ヲ為ス可キ部分ハ嫡出ノ子ノ相續ス可キ部分ノ三分ノ一タル可シ又父母ニ嫡出ノ子又ハ卑屬ノ親ナクシテ尊屬ノ親及ヒ兄弟姉妹アル時私生ノ子遺物ヲ相續ス可キ部分ハ其

半ハタル可シ又父母ニ尊属ノ親卑属ノ親及
 ヒ兄弟姉妹ノ共ニアラザル時私生ノ子遺物
 ヲ相續ス可キ部分ハ其四分ノ三タル可シ
 第七百五十八條 父母ノ遺物相續ヲ為シ得可
 キ級ノ親族ナキ時ハ私生ノ子其遺物ノ全部
 ヲ相續スルノ權アリ

第七百五十九條 私生ノ子父母ヨリ前ニ死シ
 タル時ハ私生ノ子ノ子及ヒ其卑属ノ親前數
 條ニ記シタル所ノ部分ヲ相續スルノ權アリ
 第七百六十條 私生ノ子及ヒ其卑属ノ親ハ以

前父母ヨリ得タル贈物中ニテ此卷ノ第六章
 第二款ニ定メタル規則ニ循ヒ遺物相續ノ時
 交還ス可キ諸件ヲ己ノ得可キ部分中ヨリ差
 引ク可シ

第七百六十一條 私生ノ子父母ノ生存中ニ前
 數條ニ循ヒ其得可キ部分ノ半ハヲ受ケ其父
 母其私生ノ子ニ與フ可キ財産ハ既ニ其贈與
 シタル部分ノミニ限ル可キノ意タルヲ別
 段述ヘタル時ハ父母ノ死去スル時私生ノ子
 及ヒ其卑属ノ親其餘ノ部分ヲ相續セント要

ムルヲ得ス

若シ父母生存中ニ私生ノ子ニ贈與シタル財産其相續ス可キ部分ノ半ハヨリ少ナキ時ハ私生ノ子其半ハニ至ル迄ノ外更ニ其餘ヲ要ムルヲ得ス

第七百六十二條 第七百五十七條及ヒ第七百五十八條ノ規則ハ姦通及ヒ亂倫ノ子ニ適當シテ用フ可カラズ
法律上ニ於テハ此等ノ子ニ唯其養料ヲ給ス可キノミナリトス

第七百六十三條 其養料ハ父母ノ家産及ヒ相續人ノ多寡ト級ノ親疎トニ從テ之ヲ定ム可シ

第七百六十四條 父母其姦通及ヒ亂倫ノ子ニ工藝ヲ學ハシメ又ハ父母中ノ一方ニテ其生存中此等ノ子養料ヲ得可キノ道ヲ立テ置キタル時ハ此等ノ子父母ノ遺物相續ニ加ハリテ養料ヲ得ント要ムルヲ得ス

第七百六十五條 私生ノ子子孫ナク死去シタル時ハ其父母中之ヲ我子ナリト認メタル一

方ニテ其遺物相續ヲ為シ又父母共ニ之ヲ我子ナリト認メタル時ハ父母各其遺物ノ半ハヲ相續ス可シ

第七百六十六條 私生ノ子ノ父母既ニ死去シテ私生ノ子モ亦子孫ナク死去シタル時其曾テ父母ヨリ受ケタル財産猶以前ノ儘全存スルニ於テハ嫡出ノ兄弟姉妹其財産ヲ相續シ且私生ノ子父母ヨリ受ケタル財産ヲ他人ニ奪ハレシ事アル時ハ之ヲ取戻ス可キ訴訟ヲ為スノ權ト其私生ノ子父母ヨリ受ケタル財

産ヲ他人ニ賣拂ヒ猶其價額ヲ受取ラサル時ハ其價額ヲ受取可キノ權ト亦之ヲ嫡出ノ兄弟姉妹ニ移ス可シ○其他ノ財産ハ私生ノ子ノ兄弟姉妹及ヒ其卑屬ノ親之ヲ相續ス可シ○第二款 死者ノ配偶者ノ權及ヒ官府ノ權

第七百六十七條 若シ死者ニ遺物相續ヲ為シ得可キ級ノ親族及ヒ私生ノ子ナキ時ハ離婚シタルニ非サル配偶者其遺物相續ヲ為ス可シ

第七百六十八條 又生存スル配偶者ナキ時ハ之ヲ官ニ徵收ス

第七百六十九條 死者ノ遺物ヲ相續ス可キ配偶者及ビ死者ノ財産ヲ徵收ス可キ土地ノ官署ハ其財産ニ封印ヲ為シ且其目錄ヲ記ス可シ但シ其封印ヲ為シ及ビ目錄ヲ記スル法式ハ遺物ノ價額ニ至ル迄ノ外負債及ビ費用ヲ償ハザルノ特權ヲ以テ遺物相續ヲ肯スル者ノ為メ定メタル所ニ循フ可シ
第七百九十三條以下ニ詳ト

第七百七十條 死者ノ配偶者及ビ土地ノ官署ハ其地ヲ管轄スル下等裁判所ニ其財産ヲ所有ト為ス可キヲ求ム可シ○其裁判所ニ於テハ常例ニ循ヒ三次ノ公告及ビ三次ノ貼附ヲ為シ且「プロキュウルアンペリアルト」ノ說ヲ聽キタル後ニ非サレバ其求メヲ許ス可カラズ

第七百七十一條 死者ノ配偶者ハ其相續シタル動産ヲ賣拂フテ其價額ヲ資益トナル可キ方法ニ用ヒ死者ノ當然ノ相續人三年内ニ出

テ來ルトアル時ハ其金額ヲ渡ス可キ為メ至
當ノ保證者ヲ立ツ可シ但シ三年ノ後ハ其保
證者ヲ免ス可シ

第七百七十二條 死者ノ配偶者及ヒ土地ノ官
署其行ヲ可キ法式ヲ行ハス其財産ヲ所有ト
ナシタル時後ニ其當然ノ相續人ノ出テ來ル
トアルニ於テハ其相續人ニ償額ヲ拂フ可キ
トテ裁判所ヨリ言渡サル可シ

第七百七十三條 第七百六十九條第七百七十
條第七百七十一條第七百七十二條ノ規則ハ

死者ノ親族ノアラスアル時其遺物ヲ相續ス可
キ私生ノ子ニモ亦適當シテ用フ可シ

第五章 遺物相續ヲ肯スル事及ヒ肯
セサル事

第一款 遺物相續ヲ肯スル事

第七百七十四條 遺物相續ハ別段ノ約定ナク
之ヲ肯シ又ハ相續人其相續ス可キ遺物ノ價
額ニ至ル迄ノ外負債及ヒ費用ヲ償ハザル特
權ヲ有スル約定ヲ以テ之ヲ肯スルトテ得可
シ

第七百七十五條 何人ト雖氏自己ノ為ス可キ遺物相續ヲ必スシモ肯スルニ及バス

第七百七十六條 婦ハ第一篇第五卷婚姻第六章

夫婦ノ權利ノ規則ニ循ヒ其夫又ハ裁判所ノ及ヒ義務

允許ナクシテ當然遺物相續ヲ肯スルトヲ得

ス

幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者ハ第一篇第十

卷幼年後見ノ規則ニ循ハスシテ當然遺物相

續ヲ肯スルトヲ得ス

第七百七十七條 遺物相續人其相續ノ事ヲ肯

シタル時ハ死去ノ日ヨリ以來之ヲ肯シタルノ効アリトス

第七百七十八條 遺物相續ヲ肯スルハ明許又

ハ黙許ヲ以テ之ヲ為ストヲ得可シ公私ノ證

書ニ遺物相續ヲ肯セシ者タルノ名目ヲ記シ

タル時ハ明許ナリトシ又相續人遺物相續ヲ

必ス肯スルノ意タルトヲ推知ス可キノ所行

及ヒ遺物相續ヲ肯セサレハ為ストヲ得可カ

ラサルノ所行ヲ為シタル時ハ黙許ナリトス

第七百七十九條 死者ノ財産ヲ保全シ及ヒ之

ヲ監察シ又ハ假リニ其財産ヲ支配スルノ所
行ヲ為スノミニシテ此等ノ事ニ管シタル證
書ニ遺物相續ヲ肯セシ者タルノ名目ヲ記セ
サル時ハ此等ノ所為ヲ以テ遺物相續ヲ肯シ
タルノ證ト為ス可カラス

第七百八十條 遺物相續人中ノ一人其與ニ遺
物相續ヲ為ス可キ者ノ全負又ハ其員中ノ者
又ハ其他ノ者ニ遺物相續ヲ為ス可キ權ヲ贈
與シ又ハ賣渡シ又ハ移傳シタル時ハ其遺物
相續人遺物相續ヲ肯シタルノ證アリトス

又遺物相續人中ノ一人其與ニ遺物相續ヲ為
ス可キ者ノ一人又ハ數人ノ為メ遺物相續ヲ
為ス可キノ權ヲ拋棄シタル時ハ其拋棄ヲ為
スニ付キ報謝ヲ得スト雖其相續人遺物相
續ヲ肯シタルノ證アリトス
若シ又相續人中ノ一人其與ニ遺物相續ヲ為
ス可キ者ノ全負ノ為メ區別ナク遺物相續ヲ
為ス可キ權ヲ拋棄シタル時ト雖其報謝ヲ
受ケタルニ於テハ亦前ニ均シトス
第七百八十一條 若シ遺物相續ヲ為ス可キ者

之ヲ肯セサル事ナク又明許又ハ黙許ヲ以テ之ヲ肯シタル事ナク死去シタル時ハ其者ノ遺物相續人其權ニ代リテ同上ノ遺物相續ヲ肯シ又ハ肯セザル事自由ナリトス

第七百八十二條 若シ前條ニ記シタル死者ノ遺物相續人中ニテ同上ノ遺物相續ヲ肯シ又ハ肯セサル事ヲ協議セサル時ハ遺物ノ價額ニ至ル迄ノ外負債及ヒ費用ヲ償ハザル特權ヲ有スルノ約定ヲ以テ其遺物相續ヲ肯ス可シ

第七百八十三條 丁年者明許又ハ黙許ヲ以テ既ニ遺物相續ヲ肯シタル後ニ至リ更ニ復タ之ヲ肯セサルヲ述ルヲ得ス但シ其者他人ノ詐偽ニ因リ其遺物相續ヲ肯シタル時ハ例外ナリトス○又其丁年者遺物相續ヲ肯シタル時自己ノ知り得サル死者ノ遺囑書ヲ後ニ見出シタルニ因リ其相續ス可キ財産ノ數半ハ以上減シタル時ノ外ハ已ニ損害アルヲ以テ口實ト為シ既ニ肯シタル遺物相續ヲ拒ム可カラス

○第二款 遺物相續ヲ肯セサル事

第七百八十四條 遺物相續ヲ肯セサル事ハ思料ノミヲ以テ為ス可カラズ但シ遺物相續ヲ肯セサル事ハ其相續ヲ為ス地ヲ管轄スル下等裁判所ノ書記局ニ別段設ケタル簿冊中ニ之ヲ記入スルヲ必要トス

第七百八十五條 遺物相續ヲ肯セサル相續人ハ初ヨリ遺物相續人ニ非サル者ト看做ス可シ

第七百八十六條 遺物相續ヲ肯セサル者ノ受

ク可キ遺物ノ部分ハ其與ニ遺物相續ヲ為ス可キ者ニ移ス可シ若シ其遺物相續ヲ肯セサル者ト與ニ相續ヲ為ス可キ者ナキ時ハ更ニ一級疎遠ナル親族ニ移ス可シ

第七百八十七條 遺物相續ヲ肯セサル者ノ子孫ハ代リテ遺物相續ヲ為スヲ得ズ但シ其遺物相續ヲ肯セサル者ト同級ニテ與ニ遺物相續ヲ為ス可キ者ナキ時又ハ與ニ遺物相續ヲ為ス可キ者アリト雖モ亦皆遺物相續ヲ肯セサル時ハ其遺物相續ヲ肯セサル者ノ子孫

自己ノ權ヲ以テ各自ニ其遺物相續ヲ為ス可シ

第七百八十八條 負債者遺物相續ヲ肯セサル

ニ因リ其債主ノ為メ損失ヲ生ス可キトアル時ハ債主裁判所ヨリ負債者ノ權ニ代リ自カラ遺物相續ヲ肯ス可キノ允許ヲ受ルヲ得可シ

此場合ニ於テハ其債主ノ利益ノ為メ其貸額ニ至ル迄負債者ノ遺物相續ヲ拒ミシ事ヲ取消ス可シ但シ其負債者ノ利益ノ為メ之ヲ取

消スヲナカル可シ

第七百八十九條 遺物相續ヲ肯シ又ハ肯セザ

ルヲ得可キ期限ハ不動産所有ノ權ヲ訴フル事ニ付キ定メタル最モ永キ期限ニ均シトス 第二千二百六十二條ニ詳ナリ

第七百九十條 一度遺物相續ヲ肯セザリシ者

後猶之ヲ肯スルヲ得可キ定期内ニ他ノ遺物相續人ノ之ヲ肯シタルトナキ時ハ其者更ニ其遺物相續ヲ肯スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テ他ニ定期ノ時間其遺物中ノ物件ヲ有

セシニ因リ終ニ之ヲ所有ト為スヲ得タル者
アル時又ハ遺物相續人ナキ財産ヲ取扱ヒタ
ルヲキュラトウルト正シク契約ヲ結ビシニ因リ
其遺物ノ物件ヲ所得ト為シタル者アル時ハ
其者ノ權ヲ害スルヲナカル可シ

第七百九十一條 婚姻ノ契約書ニ據ルト雖
現存スル人ノ遺物相續ヲ為スヲ預メ拒ム
可カラヌ又現存スル人ノ遺物相續ヲ為ス可
キ權ハ預メ之ヲ他人ニ譲リ渡ス可カラヌ

第七百九十二條 遺物相續ノ財産ヲ竊ニ轉移

シ又ハ人ノ隱藏スルヲ知リ告ケサル遺物相
續人ハ其遺物相續ヲ為スヲ肯セサルノ權ヲ
失フ可シ但シ其遺物相續人ハ自カラ其遺物
相續ヲ為スヲ肯セスト雖モ猶別段ノ約定
ナキ遺物相續人タル可ク且ツ己ノ竊ニ移轉
シ又ハ人ノ隱藏スルヲ知リ告ケサル財産ハ
少シモ之ヲ相續スルヲ得ス

○第三款 遺物相續人其相續セシ財
産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハ
サル特權此特權ヨリ生ス可キ諸

件及ヒ此特權ヲ有スル相續人ノ義務

第七百九十三條 遺物相續ヲ為ス可キ者其相續スル財産ノ價ニ至ル迄ノ外負價ヲ償ハサル特權ヲ以テ相續ヲ為サント欲スル事ハ其相續ヲ為ス地ノ下等裁判所ノ書記局ニ別段之ヲ届ケ相續ヲ肯セサルノ證ヲ記スル為メ別段設ケタル簿冊ノ中ニ其由ヲ登記ス可シ
第七百九十四條 其届ヲ為スト雖モ其前又ハ其後ニ訴訟法ノ規則ニ循ヒ後條ニ記スル定

期間ニ相續ヲ為ス可キ財産ノ詳密ニシテ且公正ナル目錄ヲ記スルニ非ザレハ其効ナカル可シ

第七百九十五條 同上ノ特權ヲ以テ遺物相續ヲ為ス可キ者ハ其相續ヲ始ムル日ヨリ三月内ニ同上ノ目錄ヲ記ス可シ且其者ハ其相續ヲ肯シ又ハ肯セサルヲ孰考ス可キ為ノ更ニ四十日ノ猶豫ヲ得可シ但シ其猶豫ノ期限ハ目錄ヲ記スル三月ノ期限ヲ終リシ日ヨリ之ヲ算ヘ若シ其目錄未タ三

月ニ滿サル中ニ成就セシ時ハ目錄ノ成就ヒ
シ日ヨリ之ヲ算フ可シ

第七百九十六條 若シ相續ス可キ遺物中ニ損
敗ス可キ物又ハ蓄藏スルニ多クノ費用ヲ要
ス可キ物アル時ハ其相續ノ為ス可キ者遺物
相續ヲ為ス可キノ權アルニ因リ裁判所ヨリ
其物件ヲ賣拂フ可キノ允許ヲ得可シ但シ其
者此手續ヲ為スト雖モ其遺物相續ヲ肯シタ
リト看做ス可カラズ
其遺物ノ賣拂ハ訴訟法ニ定メタル貼附及ヒ

公布ヲ為スノ後官吏之ヲ為ス可シ

第七百九十七條 目錄ヲ記シ及ヒ熟考ヲ為ス
タメノ期限間遺物相續ヲ為ス可キ者ヲシテ
強テ其相續人ナリト定メシムルヲ得ス且
遺物相續ノ訴訟ニ付キ其者ヲ相手方ト為シ
裁判ヲ受ケシムルヲ得ス○此定期ノ終ル
時又ハ其終ル可キ前ニ其者遺物相續ヲ為ス
ト肯セサル旨ヲ届クル時ハ其時ニ至ル迄
其者ノ正當ニ為シタル費用ヲ遺物ノ財産中
ヨリ償フ可シ

第七百九十八條 此期限ノ終リシ後遺物相續
 ヲ為ス可キ者訴訟ヲ受クル時ハ更ニ延期ヲ
 得ント願フコトヲ得可シ但シ其訴訟ヲ管スル
 裁判所ニ於テハ其時ノ模様ニ從ヒ其延期ヲ
 許シ或ハ之ヲ許ササル可シ

第七百九十九條 前條ニ記セシ訴訟ノ場合ニ
 於テ遺物相續ヲ為ス可キ者死者ノ死去セシ
 ヲ知ラサル確證ヲ立シ時及ヒ其遺物ノ遠地
 ニアリ又ハ其遺物ニ付キ争ノ起リシニ因リ
 延期ノ日數足ラサルノ確證ヲ立ル時ハ其訴

訟ノ費用ヲ遺物ノ財産中ヨリ償フ可シ然レ
 若シ遺物相續ヲ為ス可キ者其確證ヲ立サル
 時ハ其者ヲシテ其訴訟ノ費用ヲ償ハシム可
 シ

第八百條 遺物相續ヲ為ス可キ者ハ第七百九
 十五條ニ記シタル期限ノ終リシ後及ヒ第七
 百九十八條ニ記スル所ニ循ヒ裁判役ヨリ許
 シタル延期ノ終リシ後ト雖モ尚^ホ目錄ヲ記シ
 遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權
 ヲ以テ相續ヲ為スコトヲ得可シ但シ其者此特

權ヲ以テ相續ヲ為スニ反シタル方法ニテ相續ヲ為ス可キノ證書ヲ記シ又ハ訴訟ノ終審ノ裁判アリテ其者其特權ナキ相續人タル可キトテ裁判所ヨリ言渡シタル時ハ格別ナリトス

第八百一條 遺物相續ヲ為ス可キ者其遺物ヲ隱藏シタル時或ハ故ヲ不正ノ意ヲ以テ目錄中ニ遺物ヲ記セサル時ハ遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權アル相續人タル可キノ權ヲ失フ可シ

第八百二條 同上ノ特權ヲ以テ相續ヲ為ス時ハ其相續人ノ為メ左ノ權ヲ生ス可シ

- 第一 已レノ相續シテ得タル遺物ノ價
- ニ至ル迄ノ外遺物相續ニ付キ擔當ス
- 可キ負債ヲ拂ハサルノ權利及ヒ死者ニ償還ヲ要ム可キ債主又ハ死者ノ遺屬ノ贈遺ヲ受ク可キ者ニ已レノ相續セシ遺物ヲ盡ク渡ス時ハ遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ拂フヲ免ルノ權利

第二 其相續人自己ニ屬スル財産ヲ其相續シタル財産ト混同スルトナク且以前死者ニ貸與ヘタル金高又ハ物件ヲ遺物財産中ヨリ取戻ス可キ訴ヲ為スノ權利

第八百三條 相續シタル遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テ遺物相續ヲ為シタル者ハ其相續シタル遺物ヲ支配シ且死者ノ債主及ヒ死者ノ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者ニ其支配スル遺物中ヨリ償還ノ算計ヲ為

ス可シ
此遺物相續人同上ノ算計ヲ為ス可キノ催促ヲ受ケ猶之ヲ為サ、ルニ非レハ其者ニ屬スル財産中ヨリ其算計ヲ為サシムルトテ得ズ其算計ノ終リシ後ハ其遺物相續ニ付キ得タル物件ノ價ニ至ル迄ノ外其者ニ屬スル財産ヲ出サシムルトテ得

第八百四條 同上ノ特權ヲ有スル相續人ハ其任ヲ得シ遺物支配ノ事ニ付キ重大ノ過アル時、外其責ニ任スルトナカル可シ

第八百五條 同上、特權アル遺物相續人遺物
 中ノ動産ヲ賣拂ハントスルニハ定例ニ從ヒ
 貼附及ヒ公布ヲ為シタル上官吏ノ照管ヲ以
 テ之ヲ糶賣ニ為ス可シ
 又此遺物相續人品物ノ儘其動産ヲ渡ス時ハ
 己ノ懈怠ニ因リ其低價ニ至リシ高ヲ擔當ス
 可シ

第八百六條 此遺物相續人ハ訴訟法ニ定メタ
 ル法式ヲ用ヒスシテ不動産ヲ賣拂フ可カラ
 ス又此相續人ハ死者ノ不動産ヲイポテ

トシテ取タル債主ノ要メニ從ヒ其不動産ヲ
 賣拂フテ得タル代金ヲ以テ其債主ニ償フ可
 シ

第八百七條 又此遺物相續人債主及ヒ其他遺
 物相續ニ管係アル者ノ要メヲ受ケタル時ハ
 目錄中ニ記シタル動産ノ代金及ヒイポテ
 クノ權アル債主ニ渡シタル以外ノ不動産ノ
 代金ヲ償フニ足ル可キ保證者ヲ立ツ可シ
 若シ其保證者ヲ立テサル時ハ動産ヲ賣拂ヒ
 其代金ヲイポテクノ權アル債主ニ渡タル

以外、不動産ノ代金ト共ニ官署ニ預ケ遺物
相續ニ付キ擔當ス可キ負債ノ拂方ニ供ス可
シ

第八百八條 債主中ニ其債ノ拂方ヲ得ルニ付
キ別段已レ、特權ヲ保護スルヲ訴フル者アル
時ハ同上ノ遺物相續人裁判役ヨリ定メタル
順序ト方法トヲ用ヒスニテ其債ヲ拂フ可カ
ラス

若シ債主中ニ別段其特權ヲ保護スルヲ訴フ
ル者ナキ時ハ此遺物相續人債主及ヒ遺囑ノ

贈遺ヲ受ク可キ者ノ求メヲ為ス順序ニ從ヒ
其償ヲ為ス可シ

第八百九條 債主中別段其特權ヲ保護スルヲ
ヲ訴ヘサル者ハ此遺物相續人既ニ算計ヲ為
シ終リ其相續シタル諸件ヲ盡ク他ノ債主ニ
拂ヒタル後ニ至リテ其相續人ニ貸金ノ償ヲ
要ム可カラス唯遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者ノ
ニニ其要メヲ為スヲ得可シ
此場合ニ於テ同上ノ債主ハ此遺物相續人ノ
算計ヲ為シ終リテ其相續シタル諸件ヲ盡ク

他ノ債主ニ拂ヒシ日ヨリ三年内ニ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シ貸金ノ償ヲ得ルノ訴ヲ為ス可シ若シ其定期ヲ過ル時ハ其訴ヲ許サス

第八百十條 若シ遺物ニ封印ヲ為シタル時ハ其封印ヲ為スノ費用並ニ其目錄及ヒ算計書ヲ記スル費用ハ遺物ノ財産中ヨリ之ヲ償フ可シ

○第四款 遺物相續人ノ虧缺シタル財産

第八百十一條 目錄ヲ記シ及ヒ熟考ヲナス為メノ定期ノ後ニ遺物相續ヲ求ムル者出テ來ラヌ又ハ人ノ知ル所ノ遺物相續人ナク又ハ遺物ヲ相續ス可キ者アリト雖此等ノ者皆其相續ヲ肯セサル時ハ之ヲ遺物相續人ノ虧缺シタル財産トス可シ

第八百十二條 同上ノ遺物相續ヲ為ス地ヲ管轄スル下等裁判所ニ於テハ其遺物ニ管係アル者ノ願ニ因リ又ハプロキリウルアシベリアルノ申立ニ從ヒ其財産ノキョラトールヲ任

ス可シ

第八百十三條 遺物相續人ノ虧缺セシ遺物ヲ支配スル「キュラトール」ハ先ツ目錄ヲ記シテ其遺物ノ模様ヲ證明シ及ヒ遺物相續ノ事ニ管スル權利ヲ行ヒ又其權利ヲ保護ス可キ為メ訴訟ヲ為シ又人ヨリ訴訟ヲ為ス「アール」時ハ被告トナリテ其答辯ヲ為シ且其遺物ノ財産ヲ支配ス可シ但シ此「キュラトール」ハ遺物中ニ「ル」金高ト不動産動産ヲ賣拂ヒ得タル所ノ代金ト「官署」ニ預ケ債主ノ權ヲ損害セサル

法ヲ以テ其債ヲ償フ可シ

第八百十四條 遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ノ償ハサル特權ヲ以テ相續ヲ為ス者ノ記ス可キ目錄ノ體裁遺物ヲ支配スルノ方法及ヒ債主ヘノ算計ニ付キ此章ノ第三款ニ記スル所ノ規則ハ相續人ノ虧缺セシ遺物ヲ支配スル「キュラトール」モ亦通シテ之ヲ用フ可シ

○第六章 遺物分派ノ事及ヒ死者ヨリ嘗テ受ケタル贈遺ヲ返還スル事

○第一款 分派ノ訴訟及ヒ其法式

第八百十五條 如何ナル遺物相續人ト雖、凡其相續シタル遺物ヲ必スシテ他ノ相續人ト永ク共同スルニ及ハス別段其遺物ヲ分派ス可カラサルノ禁制及ヒ契約アル時ト雖、凡相續人中ノ一人ヨリ其分派ヲ訴フルコトヲ得可シ。然レ相續人等定期ノ時間其分派ヲ為サ、ルノ契約ヲ結ブコトヲ得可シ。但シ其契約ハ五年以上繼守スルニ及ハスト雖、凡其期限ニ至リ更ニ之ヲ改結スルコトヲ得可シ。

第八百十六條 與ニ遺物相續ヲ為ス数人中ノ

一人遺物ノ一部ヲ別ニ占有シタル時ト雖、凡他ノ相續人等其一部ヲ合シテ数人ニ分派ス可キコトヲ訴フルヲ得可シ。但シ其一部ヲ別段其一人ニ屬ス可キコトヲ記シタル證書アリ又ハ其一人定期ノ時間永ク之ヲ占有シタル時ハ格別ナリトス。

第八百十七條 幼年ノ遺物相續人又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ遺物相續人ノ為メ分派ヲ求ムル訴ハ其後見人別段親族會議ノ許諾ヲ得テ之ヲ為ス可シ。

失踪セシ遺物相續人ノ為メ分派ヲ求ムル訴
ハ失踪者ノ財産ヲ假ニ有シタル其親族之ヲ
為ス可シ

第八百十八條 婦ノ人ヨリ相續スル動産及ヒ
不動産ヲ夫婦共同ノ財産中ニ加入スル時ハ
夫其婦ノ承諾ヲ得スシテ其動産及ヒ不動産
ノ分派ヲ他ノ遺物相續人ニ對シ訴フルトヲ
得可シ然レ婦ノ人ヨリ相續スル動産及ヒ不
動産ヲ夫婦共同ノ財産中ニ加入セサル時ハ
夫其婦ノ承諾ヲ得スシテ他ノ遺物相續人ニ

對シ其分派ヲ訴フ可カラス但シ夫婦共同ノ
所有ト為サル婦ノ得タル遺物ニ付キ夫其
入額ヲ得ルノ權アル時ハ他ノ相續人ニ對シ
假リノ分派ヲ為サント訴フルトヲ得可シ
又婦ト共ニ遺物相續ヲ為ス者ハ其夫婦雙方
ニ對シ訴ヲ為サレハ確定ノ分派ヲ為シ得
可カラス

第八百十九條 遺物相續人皆其相續ヲ為ス可
キ地ニ在リ且皆丁年者ナル時ハ其遺物ニ必
スシモ封印ヲ為スニ及ハス其遺物相續人等

ノ隨意ノ方法ニ其分派ヲ為スルヲ得可シ
 若シ遺物相續人中其相續ヲ為ス可キ地ニ在
 サル者アル時又ハ幼者或ハ治産ノ禁ヲ受ケ
 シ者アル時ハ相續人ノ願ニ因リ又ハ下等裁
 判所ノプロロキリウルアニペリアルノ申立ニ
 因リ又ハ遺物相續ヲ為ス地ヲ管轄スル最下
 等裁判所ノ裁判役ノ公務ニ因リカメテ急速
 ニ遺物ノ財産ニ封印ヲ為ス可シ
 第八百二十條 債主モ亦裁判言渡ノ如ク執行
 ヲ可キ旨ヲ附記シタル公正ノ證書ニ因リ又

ハ裁判役ノ允許ニ因リ其遺物ノ財産ニ封印
 ヲ為スルヲ求ムルヲ得可シ
 第八百二十一條 債主ハ前條ニ記シタル證書
 又ハ裁判役ノ允許ナキ時ト雖モ相續人等既
 ニ遺物ニ封印ヲ為シタル上ハ已レニ報知セス
 シテ封印ヲ除去ス可カラサル旨ヲ告ルルヲ
 得可シ
 封印ヲ除キ及ヒ目錄ヲ記スルノ法式ハ訴訟
 法ニ之ヲ定ム
 第八百二十二條 分派ヲ求ムル訴訟及ヒ分派

ヲ為ス時間ニ生スル争ハ遺物相續ヲ為ス地
 ノ下等裁判所ニ申出ル可シ
 又遺物ノ財産中ニテ分派シ難キ物ハ同上ノ
 裁判所ニテ之ヲ糶賣ニ為ス可シ又與ニ分派
 ヲ為ス相續人ノ各得可キ遺物ノ部分ヲ互ニ
 保證スルニ管シタル訴第四百八十四條見合及ヒ分派
 ヲ取消サントスル訴モ亦此裁判所ニ申出ス
 可シ

第八百二十三條 若シ與ニ遺物相續ヲ為ス者
 ノ中一人分派ヲ承諾セサル時又ハ分派ヲ取

扱フ方法及ヒ之ヲ成就スル方法ニ付テ争ノ
 生スル時ハ下等裁判所ニテ急速吟味ノ法式
 ヲ用ヒ其訴ヲ審判シ又別段ノ道理アル時ハ
 分派ヲ為ス可キ為メ特ニ裁判役中ノ一人ヲ
 其掛リニ任シ其啓告ヲ得タル上其訴ヲ審判
 ス可シ

第八百二十四條 不動産ノ評價ハ分派ノ事ニ
 管係アル者ヨリ任シタル評價人又分派ノ事
 ニ管係アル者其評價人ヲ任スルヲ肯セザ
 ル時ハ裁判所ノ公務ヲ以テ任シタル評價人

ヲシテ之ヲ為サシム可シ
 評價人ノ調書ニハ其評價ノ大旨ヲ記ス可シ
 但シ大旨トハ評價シタル不動産ヲ分派シテ
 不便ナキヤ否ノ事且分派シテ不便ナキ時ハ
 如何ナル方法ヲ以テ分派ス可キヤノ事及ヒ
 幾箇ノ部分ニ分派ス可キヤノ事並ニ其各部
 分ノ價ハ幾許タルヤノ事ヲ定ムルヲ云フ
 第八百二十五條 又動産ノ評價ハ既ニ其評價
 書アル時ノ外別段評價人ヲシテ之ヲ為サシ
 ム可シ但シ評價人其價ヲ定ムルニハ正當ノ

價ヲ以テシ別段之ニ増價ヲ為スヲ要セサル
 方法ヲ用フ可シ
 第八百二十六條 遺物相續ヲ為ス可キ數人ハ
 各其相續ス可キ動産及ヒ不動産ノ部分ニ品
 物ノ儘得可キノ訴ヲ為ス事ヲ得可シ然レ負
 債ノ抵償トシテ遺物ノ財産ヲ差押フル債主
 アル時又ハ相續人中過半其遺物ノ負債ヲ償
 フ可キ為メ其財産ヲ賣拂フヲ必要ナリト述
 ル時ハ其動産ヲ通常ノ法式ヲ以テ糶賣ニ為
 ス可シ

第八百二十七條 又不動産ヲ分派スル事不便ナル時ハ其不動産ヲ裁判所ニテ糶賣ニ為ス可シ

然レ各遺物相續人皆丁年ナル時ハ其相續人協議ノ上撰任シタル「テイル」ノ面前ニ於テ其糶賣ヲ為ス「ヲ」得可シ

第八百二十八條 不動産及ヒ動産ノ評價ヲ為シ且之ヲ賣拂「可キ時ハ之ヲ賣拂ヒ」後掛リ裁判役ノ言渡ニテ各遺物相續人「ヲ」其協議シテ任シタル「テイル」ノ面前ニ至ラシメ若

シ其相續人「テイル」ヲ任スルニ付キ協議セサル時ハ裁判所ノ公務ヲ以テ任シタル「テイル」ノ面前ニ至ラシム可シ
其「テイル」ノ面前ニ於テ各相續人其為ス可キ算計ヲ為シ分派ス可キ財産ノ合部ト各人ニ分派ス可キ部トヲ定メ又相續人中ノ一人ヨリ他ノ相續人ニ引渡ス可キ物アル時ハ其分量ヲ定ム可シ

第八百二十九條 各遺物相續人ハ後ニ記スル所ノ規則ニ循ヒ其嘗テ死者ヨリ得タル贈物

ト其死者ヨリ借リタル金高トテ財産ノ合部
中ニ返還ス可シ

第八百三十條 若シ遺物相續人中ノ一人其死
者ヨリ受ケタル贈物ヲ品物ノ儘返還セサル
時ハ他ノ相續人其一人ノ返還セサル財産ニ
均シキ部分ヲ遺物財産ノ合部中ヨリ已ニ收
取ス可シ但シ此場合ニ於テハ他ノ相續人其
一人ノ返還セサル財産ト成ル可キ丈ケ同質
同價ノ財産ヲ已ニ收取ス可シ

第八百三十一條 此ノ如ク財産ヲ收取シタル

後遺物財産ノ合部中ニ尚餘リアル時ハ其餘
分ヲ遺物相續人ノ數ニ准シテ之ヲ分チ又ハ
其族數ニ准シテ之ヲ分ツ可シ

第八百三十二條 遺物ノ財産ヲ分派スルニハ
成ル可キ丈其不動産ヲ細小ニ分割スルヲ避
ク可シト雖モ其分派シタル各部ニ成ル可キ
丈同質同價ノ動産及ヒ不動産ヲ入レ且ツ同
種ノ權利ヲ加フ可シ

第八百三十三條 分派シタル動産又ハ不動産
ノ價平等ナラサル時ハ其多分ヲ得タル者ヨ

リ一方ノ者ニ相當ノ年金ヲ與ヘ又ハ金額ヲ與ヘテ其不足ヲ補フ可シ

第八百三十四條○與ニ遺物相續ヲ為ス可キ數人ニテ其中ノ一人ヲ撰ンテ財産分派ヲ為サシム可キヲ協議シ其一人之ヲ為ス可キヲ承諾シタル時ハ其者自カラ分派ヲ為ス可シ若シ然ラサル時ハ掛リ裁判役ノ任シタル評價人ヲシテ其分派ヲ為サシム可シ其分派シタル部不ハ關引ニ為シテ之ヲ收取ス可シ

第八百三十五條 分派シタル部分ヲ關引ニ為ス前各相續人其部分ノ作り方ニ付キ故障ヲ述フルヲ得可シ

第八百三十六條 遺物財産ノ合部ヲ相續人等ニ分派ス可キ規則ハ數箇ノ族中ニ分チタル部分ヲ更ニ細分スルニモ亦通シテ用フ可シ

第八百三十七條 若シ「テイル」ノ面前ニテ行フタル分派ノ手續ニ付キ争ノ生スル時ハ「テイル」各遺物相續人ノ述ヘタル故障及ヒ論說ヲ調書ニ記シ其相續人ニ掛リ裁判役ノ面

前ニ至ル可キ旨ヲ告ク可シ但シ其餘ノ事ハ
訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒ其争ノ裁判ヲ
為ス可シ

第八百三十八條 若シ與ニ遺物相續ヲ為ス可
キ數人中其場ニ在ラサル者アル時又ハ治産
ノ禁ヲ受ケレシ者及ヒ既ニ後見ヲ免レタルト
否トヲ問ハス幼者アル時ハ第八百十九條ヨ
リ以下前條ニ至ル迄ノ數條ニ記載セシ規則
ニ循ヒ裁判ノ手續ヲ經テ其分派ヲ為ス可シ
○若シ分派ヲ為スニ付キ其權ノ互ニ相觸ル

可キ幼者二人以上アル時ハ其各幼者ノ為メ
別段後見人ヲ任ス可シ

第八百三十九條 前條ニ記スル場合ニ於テ糶
賣ヲ為スアル時ハ必ス幼者ノ財産賣拂ニ
付キ定メタル所ノ法式ヲ用ヒ裁判所ニ於テ
之ヲ為ス可シ○其糶賣ニハ必ス外人ヲ管涉
セシム可シ第四百六十
條見合セ

第八百四十條 親族會議ノ許諾ヲ得タル後見
人^レキ^ラト^ルノ補佐ヲ受クル後見ヲ免レシ
幼者遺物相續ノ地ニ在ラサル相續人ノ名代

人前數條ニ記載セシ規則ニ循ヒ行フタル分派ハ之ヲ確定ノ分派トス可シ若シ前數條ニ記セシ規則ヲ循守セス分派シタル時ハ之ヲ假リノ分派トス可シ

第八百四十一條 死者ノ親族タルト否トヲ問ハス其遺物ヲ相續スルノ權ナキ者遺物相續人中ノ一人ヨリ其相續ノ權ヲ讓リ受ケタル時ハ他ノ遺物相續人ノ全負又ハ一人其者ニ其讓リヲ受クルニ付キ拂フタル金高ヲ償ヒ其者ヲ分派中ヨリ除去スルヲ得可シ

第八百四十二條 分派ヲ為シタル後ハ各相續人ニ各其所得ト為シタル財産ニ付テノ證書ヲ引渡ス可シ

二箇ニ分チタル財産ノ證書ハ其過半ヲ得ル者ニ引渡シ若シ其財産ノ少部ヲ得ル者其證書ノ必要ナルヲアル時ハ一方ノ者ヨリ之ヲ渡ス可シ
諸般ノ財産ニ通シ用フ可キ證書ハ遺物相續人等協議シテ其中一人ニ預ケ置ク可シ但シ其者ハ他ノ相續人等其證書ノ入用ナルヲア

ル時ハ之ヲ渡ス可シ
若シ此證書ヲ預カル可キ者ヲ撰ムニ付キ争
アル時ハ裁判役之ヲ定ム可シ

○第二款 返還ノ事

第八百四十三條 遺物相續人ハ持權ヲ有スル
者ト雖モ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺トシテ
直チニ得タル物及ヒ他人ノ介入ニ因リ得タ
ル者ヲ遺物相續ノ時ニ至リ他ノ遺物相續人
ニ返還ス可ク死者ヨリ嘗テ受ケタル生存中
ノ贈物ヲ己ニ保チ置ク可カラス又死者ノ遺

囑ノ贈遺ニ因リ己ノ受ク可キ物ヲ得ント求
ム可カラス但シ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺
又ハ遺囑ノ贈遺ヲ為シタル時其贈遺ヲ受ケ
シ者遺物相續ノ時ニ至リ之ヲ返還スルニ及
ハサル旨ヲ死者明カニ定メ置キタル時ハ格
別ナリトス

第八百四十四條 遺物相續人嘗テ死者ヨリ生
存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ケ遺物相續
ノ時ニ至リ之ヲ返還スルニ及ハサル旨ヲ死
者ノ明カニ定メ置キタル時ト雖モ其相續人

死者、隨意ニ贈與スルヲ得可キ定分隨意ニ人ニ贈與スルヲ得可キ所ノ財産ノ部分ヲヨリ更ニ云フ第九百十三條以下ニ詳ナリ。過分ノ贈物ヲ受ケタル時ハ其過分ヲ返還ス可シ

第八百四十五條 遺物相續人其相續ヲ背セサル時ハ嘗テ死者ヨリ受ケタル生存中ノ贈物ヲ已ニ保チ置キ又ハ遺囑ノ贈物ヲ受取ラント求ムルヲ得可シ但シ其生存中ノ贈物中ニテ死者ノ隨意ニ贈與スルヲ得可キ定分ニ過キタル部分ハ之ヲ減ス可シ又遺囑ノ贈物

中ニテモ亦同上ノ部分ハ之ヲ受ケ取ント要ム可カラス

第八百四十六條 嘗テ死者ヨリ贈物ヲ受ケル時未タ其遺物相續ヲ為ス可キノ權ナキ者其遺物相續ヲ為ス時ニ至リ其相續人トナリシ時ハ其贈物ヲ返還ス可シ但シ死者其返還ヲ為スニ及ハサル旨ヲ明カニ定メ置キタル時ハ格別ナリトス

第八百四十七條 遺物相續ヲ始ル時其相續人ノ子嘗テ死者ヨリ受ケタル贈物ハ常ニ之ヲ

返還スルニ及ハサルノ約ヲ以テ與ヘタルモ
ノト看做ス可ク其相續人之ヲ返還スルニ及
ハス

第八百四十八條 凡ソ人ヨリ贈物ヲ受ケシ者
ノ死去シタル後其子己ノ權ヲ以テ其贈與者
ノ遺物ヲ相續ス可キ時ハ其子既ニ父ノ遺物
ヲ相續シタルト雖モ嘗テ其父ノ得タル贈物
ヲ返還スルニ及ハス然レ其子父ノ權ニ
代リ嘗テ其父ニ贈與ヲ為シタル者ノ遺物相
續ヲ為ス可キ時ハ父ノ遺物相續ヲ肯セザリ

シ場合ト雖モ嘗テ其父ノ得タル贈物ヲ返還
セサルヲ得ス

第八百四十九條 遺物相續ヲ為ス可キ者ノ配
偶者ニ與ヘタル贈物ハ其相續人之ヲ返還ス
ルニ及ハサルノ約ヲ以テ與ヘタル者ト為ス
可シ

若シ贈物ヲ夫婦ニ合同シテ與ヘ其中ノ一人
其贈與ヲ為シタル者ノ遺物相續ヲ為ス可キ
時ハ其相續人其贈物ノ半ハヲ返還ス可シ又
其贈物ヲ夫婦中ニテ遺物相續ヲ為ス可キ一

方ニ與ヘタル時ハ其相續人其全部ヲ返還ス可シ

第八百五十條 贈物ノ返還ハ贈與ヲ為シタル者ノ遺物ノ財産中ニ之ヲ為ス可シ

第八百五十一條 遺物相續人ノ一人ニ産業ヲ得セシムル為メ又ハ負債ヲ償ハシムル為メ嘗テ贈遺ト為シタル財産ハ之ヲ返還ス可シ

第八百五十二條 撫養及ヒ教育ノ費用、期限ヲ定メテ修業ヲ為リシムル費用、尋常ノ衣服及ヒ身具ノ費用、婚姻ノ費用、常例ノ贈物ハ之ヲ

返還スルニ及ハス

第八百五十三條 遺物相續人嘗テ死者ト結ヒタル契約ニ因リ得タル利益ハ亦之ヲ返還スルニ及ハス但シ其契約ニ因リ不當ノ利益ヲ得タル時ハ格別ナリトス

第八百五十四條 嘗テ死者ト遺物相續人中ノ一人ト不正ノ事ヲク會社ヲ結ヒ其會社ヲ結ヒシ契約ヲ公正ノ證書ヲ以テ規定シタル時ハ其會社ヲ結ヒタルニ因リ得タル利益モ亦之ヲ返還スルニ及ハス

第八百五十五條 贈物ヲ得タル者ノ過失ニ非
スレテ意外ノ事ニ因リ減盡シタル不動産ハ
其代物ヲ返還スルニ及ハス

第八百五十六條 返還ヲ為ス可キ財産ヨリ生
シタル利益ハ遺物相續ヲ始ムル日ヨリ以來
算計シテ之ヲ返還ス可シ

第八百五十七條 返還ハ一ノ遺物相續人ヨリ
他ノ相續人ニ之ヲ為ス可ク遺囑ノ贈遺ヲ受
ク可キ者及ヒ死者ノ債主ニ之ヲ為ス可カラ
ス

第八百五十八條 返還ハ品物ノ儘之ヲ為シ又
ハ相續ス可キ遺物中ニテ以前得タル部分ヲ
差引キ遺物相續ヲ為スノ法ヲ以テ之ヲ為ス
可シ

第八百五十九條 不動産ヲ贈物トシテ得タル
相續人未タ其不動産ヲ人ニ賣拂ヒシトナク
且遺物中ニ他ノ相續人ノ為メ槩平等ナル部
分ヲ為スニ付キ其不動産ト同質同價ノ不動
産ナキ時ハ其不動産ノ儘之ヲ返還ス可シ

第八百六十條 若シ不動産ヲ贈物トシテ得タ

ル者遺物相續ヲ始ムル前ニ其不動産ヲ賣拂
ヲタル時ハ其者遺物中ヨリ以前得タル部分
ヲ差引キ遺物相續ヲ為スノ法ヲ以テ其返還
ヲ為ス可シ但シ返還ヲ為スニ付テノ價ハ遺
物相續ヲ始ムル時ノ價ニ從テ定ム可シ

第 八 百 六 十 一 條 何レノ場合ト雖モ不動産ヲ
贈物トシテ得タル者其不動産ヲ良好ニナス
為メ費用ヲ出セシ時ハ其返還ヲ為スニ其價
ノ増シタル高ヲ算計ス可シ但シ其價ノ増シ
タル高ヲ算計スルニハ遺物財産分派ノ時ノ

價ニ從テ可シ

第 八 百 六 十 二 條 其贈物ヲ受ケシ者不動産ヲ
別段良好ニ為スヲナシト雖モ其損壞ヲ護ス
ルニ必要ナル費用ヲ出セシ時ハ亦其費用ヲ
算計ス可シ

第 八 百 六 十 三 條 不動産ヲ贈物トシテ受ケシ
者己ノ所為又ハ己ノ過失及ヒ懈怠ニ因リ之
ヲ毀壞シ又ハ損敗シテ其價ノ減シタル時ハ
其者其價ノ減シタル高ヲ算計シテ返還ス可
シ

第八百六十四條 不動産ヲ贈物トシテ受ケシ者其不動産ヲ人ニ賣拂フタル時ハ其買主其不動産ヲ良好ニ為シ又ハ毀壞損敗シテ其價ヲ減シタル高ヲ其相續人前三條ノ如ク算計シテ其返還ヲ為ス可シ但シ此返還ハ不動産差引テ相續ヲ為スノ法ヲ用フルヲ云フ

第八百六十五條 不動産ヲ其儘返還スル時ハ之ヲ贈物トシテ得タル者ノ擔當シタルイホテークノ義務ヲ條掃シテ遺物財産ノ合部中ニ返還ス可シ但シイホテークノ權アル債主

ハ其不動産返還ニ付キ故ラニ己ノ權ヲ害スルヲ防ク可キ為メ其財産ノ分派ニ管涉スルヲ得可シ

第八百六十六條 死者ヨリ遺物相續人中ノ一人ニ不動産ヲ與ヘタル時後ニ他ノ相續人ニ之ヲ返還スルニ及ハサル旨ヲ別段定メタルト雖モ其不動産死者ノ隨意ニ贈與スルヲ得可キ財産ノ定分ニ過キ其過分ヲ他ノ部分ヨリ分ツニ不便ナキ時ハ其過分ヲ返還ス可シ又其不動産ノ過分ヲ他ノ部分ヨリ分ツニ不

便ナル時其過分ノ價不動産ノ全價ノ半ハニ
 過ルニ於テハ其贈與ヲ受ケン者其不動産ノ
 全部ヲ返還シ遺物財産ノ合部中ヨリ其不動
 産ノ中死者ノ隨意ニ贈與スルヲ得可キ定
 分ノ代金ヲ己ニ收取ス可シ○若シ其不動産
 ノ中死者ノ隨意ニ贈與スルヲ得可キ定分
 ノ價其不動産ノ全價ノ半ハニ過ル時ハ其贈
 物ヲ受ケン者其不動産ノ全部ヲ己ニ保有ス
 ルヲ得可シ
 但シ其場合ニ於テハ其贈物ヲ得タル者其相

續ス可キ遺物ノ財産中ニテ以前得タル過分
 ノ不動産ノ價ニ當ル可キ部分ヲ差引ク可シ
 又然ラサレハ其贈物ヲ得タル者ヨリ他ノ相
 續人ニ其過分ノ不動産ノ代金ヲ拂ヒ又ハ其
 他ノ法方ヲ以テ其償ヲ為ス可シ
 第八百六十七條 不動産ヲ其儘ニテ返還ス可
 キ遺物相續人ハ其不動産ヲ良好ニ為シタル
 ニ付キ己ノ得可キ金高ヲ盡ク受取ル迄ハ其
 不動産ヲ占有スルヲ得可シ

第八百六十八條 贈物ノ動産ハ品物ノ儘返還

ス可カラス必ス其贈物ヲ得タル相續人遺物ノ財産中ニテ其動産ノ價ニ當ル可キ部分ヲ差引キ相續スルノ方法ヲ以テ其返還ヲ為ス可シ○其動産ノ價ニ當ル可キ部分ヲ秤ルニハ嘗テ其動産ヲ贈與シタル證書ニ添ヘタル評價書ニ據リ其贈與ヲ為セシ時ノ價ニ從フ可シ若シ又其評價書ノアラサル時ハ評價人ヲシテ之ヲ評價セシメタル價ニ從フ可シ但シ評價人其價ヲ定ムルニハ正當ノ價ヲ以テシ別段之ニ増價ヲ為スヲ要ス可キ方法ヲ用

フ可カラス

第八百六十九條 贈物トシテ得タル金高ハ遺

物ノ金高中ニテ之ヲ差引キ遺物相續ヲ為ス

ノ法ヲ以テ返還ス可シ

若シ贈物トシテ金高ヲ得タル者遺物ノ金高

中ニテ之ヲ差引キ遺物相續ヲ為スノ法ヲ以

テ返還セント為スト雖モ遺物ノ金高之ニ足

ラサル時ハ其返還ス可キ金高ニ當ル可キ遺

物ノ動産ヲ拋棄シ又其動産ノ足ラサル時ハ

其遺物ノ不動産ヲ拋棄シ其總金高ヲ已ニ保

有スルヲ得可シ

○第三款 遺物相續ニ付キ擔當ス可キ
負債ヲ拂フ事

第八百七十條 遺物相續ヲ為ス數人ハ各其得
ル所ノ遺物ノ割合ヲ以テ遺物相續ニ付キ擔
當ス可キ負債ヲ拂フ可シ

第八百七十一條 遺囑ノ贈遺ヲ為ス者ヨリ其
財産中ニテ別段指定ノサル一部ヲ受クル者
第一千十條 遺物相續人ニ等シク其所得ノ割
合ヲ以テ其遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債

ヲ拂フ可シ然レ遺囑者ノ財産中ニテ別段指
定メタル品物第一千十四條見合セヲ受クル者ハ此負債
ヲ擔當スルニ及ハス但シ其者ノ死者ヨリ得
タル不動産ニ付キ「イボテ」クノ權ヲ有スル
債主アル時ハ其者自カラ其負債ヲ擔當ス可

シ第一千四百條見合セ

第八百七十二條 死者人ニ年金ヲ拂フ可キノ
受合トシテ其不動産ヲ「イボテ」クノ為シタ
ル時ハ其遺物相續ヲ為ス各人其不動産ヲ分
派スル前ニ其年金ノ元金ヲ皆濟シテ其不動

産ノ「イボテ」クヲ滌掃ス可キ「ヲ」訴フルヲ
 得可シ○若シ遺物相續人等其遺物中ノ不動
 産ノ「イボテ」クヲ滌掃スル「ヲ」ナク其儘ニテ
 分派シタル時ハ其「イボテ」クノ義務ヲ負フ
 タル不動産ヲモ亦他ノ不動産ト同一ノ割合
 ニ評價シ其價中ニテ其年金ノ元金ノ高ヲ差
 引ク可シ但シ此場合ニ於テハ其不動産ヲ已
 部分トシテ得タル相續人ノ「ニ」テ年金ヲ拂
 フ可ク且他ノ遺物相續人等ニ對シ其年金ノ
 拂方ヲ自カラ任スル「ヲ」保證ス可シ

第八百七十三條

遺物相續人ノ各擔當ス可キ
 負債ノ部分ハ其已ニ得タル遺物財産ノ割合
 ヲ以テ定ム可ク又不動産「イボテ」クノ負債
 ハ其不動産ヲ得タル相續人盡ク之ヲ其一身
 ニ擔當ス可シ但シ其相續人ハ他ノ相續人ニ
 對シ及ヒ死者ノ財産ノ全部ヲ遺囑ノ贈物ト
 シテ得タル者第一千三
條見合ニ對シ各其擔當ス可キ
 負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ還サシムルノ訴ヲ為
 シ得可シ

第八百七十四條

遺囑者ノ財産中ニテ別段措

定メタル不動産ヲ贈物トシテ得タル者其不
 動産ニ付キ擔當シタルイボテークノ負債ヲ
 拂フタル時ハ遺物相續人ニ對シ及ヒ遺囑者
 ノ財産中ニテ別段指定メサル一部ヲ贈物ト
 シテ受ケシ者ニ對シ債主ノ權ニ代リテ拂還
 シノ訴ヲ為スヲ得ヘシ第八百七十
 一條見合
 第八百七十五條 遺物相續人中ノ一人又ハ遺
 囑者ノ財産中ニテ別段指定メサル一部ヲ贈
 物トシテ得タル者死者ノ不動産ノイボテ
 クノ負債ヲ拂フニ付キ自己ノ拂フ可キ部分

ヨリ更ニ餘分ヲ拂フタル時ハ自カラ債主ノ
 權ニ代リ訴ヲ為スト雖モ他ノ遺物相續人及
 ヒ他ノ遺囑ノ贈遺ヲ得タル者ニ對シ其各人
 ノ擔當ス可キ部分ノミノ拂ヒ還テ訴フルヲ
 得可シ但シ遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負
 債ヲ償ハサル特權アル相續人ハ他ノ債主ト
 同一ノ方法ヲ以テ他ノ遺物相續人ニ對シ不
 動産ニ管シタル自己ノ貸金ヲ拂ハシムルノ
 訴ヲ為スノ權アリ
 第八百七十六條 遺物相續人中ノ一人又ハ遺

囑者ノ財産中ニテ別段指定メサル一部ヲ贈物トシテ受ケシ者ノ中一人遺物ノ不動産ノ「イポテーク」ニ付キ其擔當ス可キ負債ヲ拂フ「能ハサル時ハ他ノ相續人又ハ他ノ贈物ヲ受ケシ者其各得タル財産ノ割合ヲ以テ其一人ノ拂フ「能ハサル負債ノ部分ヲ擔當ス可シ

第八百七十七條 債主死者ノ負債ノ抵償トシテ其財産ヲ差押フル裁判言渡ノ如ク執行フ可キ證書ヲ有スル時ハ亦其遺物相續人ニ對

シ其言渡ノ如ク執行フ「得可シ然レ其債主ハ其證書ヲ遺物相續人又ハ其住所ニ送達セシ日ヨリ八日ノ後ニ非サレハ其裁判言渡ノ如ク執行フノ手續ニ取掛ル可カラス

第八百七十八條 前條ニ記スル債主ハ何ノ場合ニ於テモ遺物相續人ノ債主ニ對シ死者ノ遺物ト遺物相續人ノ元來所有スル財産トヲ令別セントスルノ訴ヲ為ス「得可シ

第八百七十九條 然レ死者ノ債主遺物相續人ノ死者ニ代テ債ヲ負フ可キ「承諾シ死者

ノ債ヲ取消シ更改シテ相續人ノ債ト為シタル時ハ其債主前條ノ訴ヲ為スノ權ナシ第一千二百七十一條見合

第八百八十條 死者ノ債主同上ノ訴ヲ為ス可キ期限ハ動産ニ付テハ三年ノ時間トシ又不動産ニ付テハ遺物相續人其不動産ヲ所有スル時間トス

第八百八十一條 遺物相續人ノ債主ハ死者ノ債主ニ對シ死者ノ遺物ト相續人ノ財産トヲ分別セントスルノ訴ヲ為ス可カラス

第八百八十二條 遺物相續人ノ債主ハ故ラニ己ノ權利ヲ害ス可キ分派ヲ為スヲ防ク可キ為メ自己ノ面前ニ非サレハ其分派ヲ為ス可カラサル旨ヲ其相續人ニ掛合タル上其債主自己ノ費用ヲ以テ其分派ニ管渉スルノ權アリ然レ其相續人其債主ノ掛合ニ管セス其面前ニ非スシテ分派ヲ為シタル時ノ外既ニ成就シタル分派ニ付キ其債主故障ヲ述フ可カラス

○第四款 遺物ノ財産ヲ分派シタルヨ

リ生スル諸件、遺物相續人不派シタル部分ヲ互ニ保證スル事

第八百八十三條 各遺物相續人ハ己ノ相續シタル財産及ヒ糶賣ノ上得タル金高ヲ嘗テ遺物相續ノ始マリシ時ヨリ己一人ニテ相續シタルト看做シ遺物中他ノ財産ハ之ヲ所有シタルトナシト看做ス可シ

第八百八十四條 若シ遺物相續人中ノ一人分派ヲ為ス前ニ生シタル原由ニ因リ己ノ部分タル財産所有ノ權又ハ其利益ヲ得ルノ權ニ

付キ人ヨリ故障ヲ受クルトアルニ於テハ他ノ相續人其損失ヲ償フ可キトテ保證ス可シ若シ又分派ノ證書中ノ一箇條ニ遺物相續人中ノ一人其所得ト為ス部分ノ財産ニ付キ日後同上ノ故障ヲ受ルトアリトモ他ノ相續人其損失ヲ償ハサルトテ別段定メ置キタル時ハ同上ノ保證ナキモノトス又遺物相續人中ノ一人自己ノ過失ニ因リ其故障ヲ受ルトアル時ハ又其保證ノ効ナシトス

第八百八十五條 若シ遺物相續人中ノ一人其

所得ト為シタル部分ノ財産ニ付キ人ヨリ故
 障ヲ受ケタルニ因リ損失ノ生シタル時ハ前
 條ニ循ヒ他ノ相續人各其所得トシタル部分
 ノ割合ヲ以テ其損失ヲ償フ可シ
 若シ他ノ遺物相續人中ニ其損失ヲ償フ可シ
 ハサル者アル時ハ其者ノ拂フ可キ部分ヲ其
 損失ヲ受ケタル相續人ト其他ノ相續人トニ
 平等ニ割付ク可シ

第八百八十六條 相續人中ノ一人其所得ト為
 シタル部分ノ財産中ニ人ヨリ年金ヲ得可キ

ノ權アリテ若シ其人年金ヲ拂フ可シハサル
 時ハ其損失ヲ受ケタル相續人他ノ相續人ヲ
 シテ其損失ヲ償ハシムルノ權アリ但シ其訴
 ハ分派ヨリ五年内ニ他ノ相續人ニ對シ之ヲ
 為ス可シ○若シ既ニ分派ヲ成就シタル後年
 金ヲ拂フ可キ者相續人中ノ一人ニ之ヲ拂フ
 可シハサルニ至リシ時ハ其相續人他ノ相續
 人ヲシテ其損失ヲ償ハシムルヲ得ス

○第五款 遺物財産ノ分派ヲ取消ス事

第八百八十七條 一度分派ヲ為シタルト雖モ

強迫及ヒ詐偽ノ所為アル時ハ之ヲ取消ト為
 ストヲ得可シ
 又遺物相續人中ノ一人自己ノ相續ス可キ遺
 物ノ部分四分一以上不足ナルノ證ヲ立ル時
 ハ分派ヲ取消ト為ストヲ得可シ○若シ相續
 ス可キ一箇ノ遺物ヲ分派ノ時遺忘セシノミ
 ニ於テハ其分派ヲ取消ストヲ訴フ可カラス
 唯分派ノ證書ニ其一箇ノ遺物ヲ追補シテ記
 入ス可シ

第八百八十八條 遺物相續人等ニ遺物ノ財産

ヲ分ツ證書ハ分派ノ證書ノ名義ヲ用ヅル
 ナク賣拂ノ契約書交換ノ契約書和解ノ契約
 書ノ名義ヲ用ヒ又ハ其他如何ナル名義ヲ用
 フルト雖モ前條ニ循ヒ之ヲ取消ス可キノ訴
 ヲ為ストヲ得可シ

然レ一度分派ノ證書ヲ記シタル後又ハ分派
 ノ證書ニ換用ス可キ證書ヲ記シタル後相續
 人等ノ間ニ起リタル真ノ争ヲ和解シ其争ヲ
 落著シテ和解ノ證書ヲ記シタル時ハ之ヲ公
 ケニ訴出シタルトナレト雖モ前條ニ記セシ

所ニ因テ其和解ノ契約書ヲ取消シト訴フ
可カラス

第八百八十九條 遺物相續人中ノ數人又ハ一人ヨリ他ノ相續人ニ後ニ故障ノ生スルヲアリト雖モ之ヲ已ニ擔當セサルノ約定ヲ以テ遺物相續ノ權ヲ詐偽ナク賣與ヘシ時ハ後ニ其賣拂ノ契約ヲ取消ス可キノ訴ヲ為ス可カラズ

第八百九十條 遺物相續人ノ損害四分一以上不足ヲ云フヲ計ルニハ遺物ノ財産分派ノ時ノ價ニ從

テ之ヲ算計ス可シ

第八百九十一條 分派ヲ取消ス可キ訴訟ノ被告人ハ原告人ニ金高又ハ品物ヲ以テ其相續ス可キ部分ヲ追補スルニ因リ其訴訟ヲ止メ改メテ分派ヲ為スヲ防クヲ得可シ

第八百九十二條 遺物相續人其相續シタル財産ニ付キ他ノ遺物相續人ノ詐偽ヲ知發シタル後又ハ強迫ノ既ニ止ミタル後ニ其相續シタル財産ヲ賣拂ヒタル時ハ其詐偽又ハ強迫ヲ述テ分派ノ取消ヲ訴フ可カラズ

辻士革筆受

佛蘭西民法五終
法律書

